

~~1496~~

1500

A great rule and a great truth

William Ambrie

大なる法と大なる真

ウヰリヤム、インブリー著

223

287



大なる法と天の眞
長遠進びを蒙れるクリアとその子



此の文音が書いてある所の書は新約書にヨハ子第一の書を名けてあるが是れは往古から使徒ヨハ子の書として傳へられたものである。使徒ヨハ子は愛せられた弟子とも呼ばれ、天國の奧義に達した人で、初代教會にては此人を鷺に擬へたが、それは彼が能く高尚なる天國の奧義に達したからである。そうして此の書はすなはち此の使徒の書いたものであると我等は教へられ且つ信じて居るが、それは理

われ新しき誠を汝等に手ふ即ち汝等相愛すべしとの是れなりわが汝等を愛するごとく汝等も相愛すべし

(約十三の卅四)

そはわれらが荏弱なるとひやること能はざる祭司の長は我儕にあらす

(來四の十五)

由のあるとである。何なれば此書の文章といひ思想といひ如何にも使徒ヨハ子の文章でありまた思想である。尤も第二世紀第三世紀頃のキリスト教の書類を調べて見ると羅馬書などのやうに屢々此書の文言を引用したものは見えぬやうであるが、それは其筈である。何なれば羅馬書は新約書中においても最も大なる書の一つであるのみならず、その書を贈られた所のロマ教會もまた最も大なる教會の一つであつた。然るに此書は極短い手紙で友人の家族に贈つた私書に過ぎないのである。然しながら此書の眞實なる事に付ては證據がないではない。最も古くから傳つた新約聖書目録にも此書名が見えて居るのみならず、殉教者ポリカ

ルプの弟子たるイレチアス等も此書に付て記したものがあつた。そうしてそのポリカルプといふ人は直接に使徒ヨハ子から教を傳へられた人である。又此書中に一次もヨハ子の名が顯はれて居らぬといふことは事實であるが、それもまた決して怪むには足らぬことである。何なれば自分の書物に自分の名を顯はさぬのはヨハ子の特徴である。どうしても自分の事を云はねばならぬ場合には他の弟子とか、又はイエスの懐に倚て居つたる弟子とか、またはイエスの愛したる弟子など、云つて決して明はに自分の名を出さないが此處も同様であつて、自分の名は顯はさずに單に長老と云つて居る。何故に長老と稱へたかとなればその譯は

四
明白である。恐くは彼が此書を贈つたのは曾つて彼が十字架の下に立つて、汝の母を見よといひたまふたイエスの御言葉を聽いてから最早六十年も立てからのことであらう。それよりもズット以前から彼は信者等を指して、我が小子等よと呼んだ。さやう、彼は實に長老であつた。それ故に長老えらびを蒙れるクリアに書を贈るとかいたのである。さらば是れは老使徒ヨハ子の書である。古への教會は此書を鷲の翼から落て來た一本の羽根に比へたが、一寸面白い譬である。また此書は實に美しい手紙である。比類稀れなる美しい手紙である。先づその物の云様を見るに如何にも胸襟を開き、打解けた云様である。例へば我おほくの事あれども紙

と墨とをもて汝等に書おくるを好まず、我汝等に至り口を對へて語らんことを望むといふて居る。また此處に親戚の間柄を思遣る同情の念も顯はれて居る。すなはち選びを蒙れる汝の姉妹の子女汝に安を問ふといふて居る。又この書には眞實から湧出る所の實に敬愛すべき禮儀といふものが見える。何なれば彼は元來イエスキリストの使徒でもあり且すでに老人でもある故に信者たるものゝ爲すべきことは之を命令するの權威は十二分に有つて居たのである。けれども彼はそれを命令せず、惟、クリアよ我いま汝に勸むといふて居る。彼は實に「愛の使徒」であつて最も能くキリストの榮光を身に反射した人であつた。けれども愛の行を

六
勸めるときには惟之を人に求めずして、われら互に相愛すべしといふて自らもその中へ加へて居る。又此書には善事を聞きかつ傳へることを喜ぶ心が見はれて居る。ヨハ子はその旅行中に或事を聞いたが、それはその母たるもの、心を大ひに喜ばすべき事柄であつた。それ故に彼は態として書を認めてその事を母に告げたのである。即ち我なんちの子等の中眞理にしたがひて行むものあるを見て甚だ喜びと告げた。また此處にキリスト教會の老牧師すなはち多年の間責任をもつて人の靈魂を護り愛情と智識と正義とを兼備へた人の柔和にして信實なる忠告がある。汝等我等が働きたる所の事を空くせず全き報賞を得んが爲に自ら慎

むべしと戒めて居る。そうして最後に此世において最も樂しき相愛といふとに就ては、我が汝等を愛するは我等の衷にありて恒に離れざる眞理によりてなりといふて居る。古人が此書を指して驚の翼から落ちた一本の羽根であると申たのも無理がない。我等も今此の書を読んで見ると成程古への聖人は聖靈に感じて語つたのであると云はずには居られない。

七
今一つ此書の美しい所は之によつて第一世紀の末頃小亞細亞地方におけるキリスト教の進歩はごういふ工合であつたかといふ事が幾分か明かになることである。

當時社會一般の狀態は容易に想像することが出来る。それに就ては歴史上の事實が能く知れて居る。例へばエペソ市には當時世界七不思議の一に數へられた立派な神社があつた。即ち彼の有名なる女神アルテミスの神宮である。また彼處に所謂アジヤの七都會の他のものもあつて、孰れも皆繁榮を極め、市場もあれば、劇場もあり、市街は常に群衆をもつて充滿したが、彼等は即ち世にあつて神なく望なきもので、惟朝露の如き浮世の榮譽榮華ばかり求めて居つたが、その榮譽榮華は疾に消失してしまつた。またそこにヒリアポリスといふ實に奢侈淫逸を極めた浴場のある市もあつた。然るに此書中には全く之とは異つた光景を窺ふこと

が出来、即ち親類の間柄であつて、玄かも共にキリスト信徒たる二家族の内輪の生活の光景を窺ふとが出来。さて此處にその父等のことは何にも見えないがどういふ譯であらうか。或はその既に永眠に就いたからであらうか。又は妻はキリストを信じたけれども良人は未だ信者にならないといふやうな譯でもあつたらうか。今日の事情を考へて見ても或はそんなことであつたかも知れない。然しそれは孰れにしても彼處に姉妹なる二人の母親があつて實に美しいキリスト信者であつたといふことは事實である。惟われのみならず、すべて眞理を知るものは亦みな汝等を愛せりとある。されば此處に二人の選ばれたる貴重キリス

「信者がある。即ち選ばれたる貴婦人クリアとその選ばれたる姉妹である。そうしてそこに亦彼等の子女があつて彼等もまた生命の道を行み真理にしたがつて行みつゝあつた。彼等の心には常に真理があつた。その真理は彼等の生活の原動力となつた。此の二家族は共にキリストの衷にあつて真理の道を保ち恰かも星の如くに光を放ちつゝあつたのである。

されば此書はイエスに愛せられた弟子ヨハネの晩年に認められた書であるが如何にも使徒的の恩恵と優美とに充滿したる使徒的の書であつて、之によつて我等は今より一千八百年前小亞細亞にあつた二つのキリスト信徒の家庭の内

情を幾分か窺知るとが出来る。然し此書は唯それ丈の價値の者であらうか。或はまた何ぞ我等の爲にも書されたものでは無からうか。思ふに此書の中に二つの最も貴重なる事があるすなはち 大なる法と大なる真との二つである。

大なる法すなはち我等互に相愛すべし

どの法

愛の法は使徒等の常に唱へた所の使命である。實は是れは彼等が常に唱へた所の使命中の最大なるものと云つても苦敷ない。彼の哥林多前書第十三章の愛の教のごときは最も驚歎すべきものであるが愛の教は決してあればかりでは

ない。例へば汝等恒に兄弟の相愛する心を存つべしといひ、兄弟の愛をもて互に愛せよといひ。汝等みな心を同じ互に思遣り兄弟を愛せよといひ。又は兄弟を愛することについては、我なんぢに書贈るに及ばず。汝等互に愛すること親しく神より教へられたればなりといふて居る。又使徒等は諸教會の間を往來して信者等の信仰に富み且その徳の美はしきを見ては、汝等がキリストイエスを信することと諸の聖徒を愛することを聞て父なる神に感謝すといふて愛なる神を讚美して居る。惟そればかりではない。使徒等は信者の愛心をもつてその眞に救はれたキリスト信者たる惟一の確實なる證據とした。すなはち我等兄弟を愛する

により既に死を出で、生に入りしことを知るといふて居る。尤も是れは汝等もし相愛せば之によりて人々汝等の我が弟子なるを知るべしと説きたまふたキリストの御言葉の反響である。されば此書の著者が選ばれた貴婦人クリヤに勧めた愛の大法はすなはち新約聖書の大法であるといふべきである。

然しながら此の愛の徳については我等はもつとも謙遜して且謹慎で語らなければならぬ。何故に謙遜して語らなければならぬかとなれば、我等は大抵愛の徳において甚だ不完全なものである。何故に謹慎で語らなければならぬか

となれば動もすれは極端に走ることがある。もしも言語を
慎むべき場合があれば此事について語るべきこそその場
合である。

さてキリスト教の愛について第一に記憶すべきは此の徳
は孤立して行はるべきものでないといふ事である。正義や
知識や勇氣や忠義や分別等の諸徳から離るれば愛も愚痴
となる。成程愛にも世の人から見ても愚かに見える所がある。
併しそれは愚痴ではない。惟十字架の愚かである。

又如何にキリスト信者でも誰でも彼でも同様に愛するこ
とは出来ない私はダビデがアブサロムを愛したやうに、ヤ
コブがラケルを愛したやうに又ヨナタンがダビデを愛し

たやうに世間一般の人を愛する譯には往かない。人間には
親和力なるものがあつて自然と同氣相求め同類相集るや
うに成つて居る。是れは自然の法である。キリストの宗教は
夫婦の愛、骨肉の愛、親友の愛を信徒間の愛または博愛と混
同するものではない。キリストは曾つて道を聴く人を指し
て我が母を視よ兄弟を視よと云ひたまふたことがある。け
れども是れは譬に過ぎない。實際キリストは誰も彼も無差
別平等に愛したまはなかつた。若き會堂の宰がキリストの
前に跪伏して永生を得るの道を探ねた時キリストは彼
を愛したまふたと書してあるが、その意味は彼には何か他
の人と異なる所があつてキリストをして感せしめたとい

ふことではなければならぬ。又十二弟子中に唯一人イエスの愛したる弟子として書されたものがある。又イエスはマルタ・マリヤとその兄弟ラザロを愛したまふたどある。その意味は即ち此の三人に對してキリストは特別なる愛情を懷きたまふたといふことではなければならぬ。然しそれにも拘はらず我等互に相愛すべしといふ法は動かない。愛はその對する所の人によつて、その程度も種類も異なるであらう。理においてそうなければならぬ。けれども全く愛のない心は即ちキリストの靈のその衷に寓らない心であるといふことは新約書の最も明白なる教訓である。聖靈の果は愛である。

されば我等互に相愛すべきことはイエスの命令である。又使徒等の教訓であるが、元來相愛するとは如何なる意味であるか。その中に如何なる要素が含まれて居るか。之を明かにすることは餘程助けになるであらうと思ふ。イエスはマルタ・マリヤとラザロを愛したまふたどあるが、その愛の中には深い愛情と歡喜との要素があつたに相違ない。然し愛には尙一つの要素がある。即ちアブサロムよ嗚呼我汝に代りて死たらんものをと絶叫んだダビデ王の愛また十有四年の間極暑極寒をも何とも思はなかつたヤコブの愛また王位も王國も立派に譲つたヨナタンの愛また衆人の罪を贖はんために生命を捨てたはふたキリストの愛また世の爲

にその最愛の獨子イエスキリストを惜みたまはぬ神の愛すなはち犠牲的の愛といふものである。新約において我等互に相愛すべしと命じてあるのは個人間の愛情よりは寧ろこの犠牲献身的の愛である。キリストが二階座敷において最後の逾越を食するときに自ら弟子等の足を洗つてのち、我汝等に例を示せり、此は我が汝等に行しごとく汝等にも行しめん爲なり、我汝等に新しき誠を予ふ即はち汝等相愛すべしとの是れなりと云ひたまふのは即はち弟子等の心の中に此の献身的の愛を燃さんと欲たまふたのである。もしも此意味を明白に了解すれば汝等互に相愛せよといふ誠の趣意が自ら明瞭になるであらう。

又或人は之を記憶すれば大に心を慰める所があるかも知れぬ。或ひは人の爲に身を犠牲にし時も惜まず財産も惜まず勞力をも惜まずに人の爲に盡し此の上にも尙盡さうといふ意志はあるけれども、その人に對して親愛の情歡喜の念の欠乏し若くは冷却しつゝあるを見て窃かに失望落膽し、自ら慚愧に耐へぬといふやうな經驗の人もあるかも知れぬが、もしも左様な人があらば、主は大方此の如き人に就いて彼はその力を盡せり彼は既にわが誠を守れりと云ひたまふであらう。

今一つ此の愛の中に籠つて居ることは常に能く人の事も願みるといふとである。即はち仁愛慈悲溫柔謙遜寛容禮

讓等の諸徳は悉く此の愛の中に籠つて居るのである。是れ即ち己を空しくし僕の貌を取つて人となり世の爲に一命を捨てたまふ所のキリストの意であつて律法を全ふする所の愛とは是である。キリストの新しき誠とは是である。然らば我等はどうして此の誠を守ることが出来やうか之に就て第一に心得べきは豫め費を計るといふことである。此の高尙なるキリスト教の愛に達するといふは中々容易なことではない。そこへ達する迄には多くの階梯を踏んで登らねばならず長い間の修練の道をも履ねばならぬが、その目的に達しやうといふには此等の苦難は覺悟の前でなければならぬ。

新約において第一等の教會は何處であるかとなれば、恐らくはピリピ教會の右に出るものはなからう。他の教會へ書を贈るときには屢々その過失を戒飭したがパウロも此の教會へ書を贈つたときには賞讃の辞のほかには有なかつたといふても可い。即ち汝等は始より我とにも福音の爲に勞きし故に我汝等を思ふごとに我が神に感謝し又汝等の爲に祈るごとに欣びて祈るといふて居る彼等は惟キリストを信じその名の爲に苦難を受けたのみならず生命の書にその名を録されたものである。然しなからピリピ教會の信者等も此の愛の徳において未だ欠けた所があつたと見える。それゆゑに彼は「マ」の獄中にあつて今にも死で

キリストの榮を顯はすやうになるかも知れないといふ時に臨み、殊更に一書を贈つて各々おのが事のみを顧みず人の事をも顧みよと云ひ且愛の行爲に益す富まんことを勸告した次第である。

さればキリスト教愛徳の富は山の麓に横はつて居るものではなく、その絶頂にあるのである。そうしてその絶頂に達するまでには幾多の峻坂を攀ばらねばならぬのである。使徒ペテロがキリスト信者の徳を列擧した順序を見ても矢張その通である。先づ第一に山の麓に谷底深く横はつて居るものは信仰であつて、その次の休憩所は徳すなはち善行である。それから智識すなはち事物の利害得失を鑑別して

その最も善きものを選ぶの能力。それからその次に擧節すなはち慾を制し己に克つこと。その次に忍耐すなはち自若として艱難辛苦に耐える能力。それから敬虔すなはち神を敬ひ慕ふて次第にその品性に似たるものとなる事。その次に兄弟の睦、それから一番終に愛が擧げてある。汝等勤めて信仰に徳を加へ徳に智識を加へ智識に擧節を加へ擧節に忍耐を加へ忍耐に敬虔を加へ敬虔に兄弟の睦を加へ兄弟の睦に愛を加へよと教へたが是れはペテロ自らの實驗から來たものに相違ない。我々には固よりそれ程の經驗はないが併し此の順序は正當であるといふ事だけは分る。譬へば名人の書た畫を見るやうなもので自らそれを畫くこと

は出來ないが一目してその眞に逼つて居るといふことだ
 けは分る實にキリスト教の愛徳の峯に達しやうといふに
 は穿い門を通り随分峻しい山坂を攀ばらねばならない。
 例へば自分より數等卑い人の下に立たり又は自分の所望
 や都合や意見を人の爲に譲たり、人の過失を見て看過した
 り、明白な罪を免して忘れて仕舞つたり、一見しては甚だ不
 都合な事であつても出來るだけ善い方にその心を推測し
 たり、自分の性質には能々氣に入らない人の氣質や慣習を
 忍んだり、物を言たかない時にも勤めて物を言ひ物を言た
 いときに謹んで物を言ないことや、萬事萬端に心を用ひ凡
 そ事包み凡そ事信じ凡そ事望み凡そ事忍ぶといふこと、即

ち一言でいへば愚人となるといふこと、是れが即ち愛の道
 に横はる所の難關である。何人でもキリスト教の愛徳を修
 めんとする人は此の如き困難に逢遭ふ覺悟がなければな
 らない。最初からその覺悟があれば自から眞面目になつて
 自ら戒しめ勵み、随つて容易に失望落膽することもない道
 理である。兵法の格言に豫め知る是れ即ち豫め備ふるな
 りといふことがあるが實にその通である。

其次にキリスト教の愛徳を修めることについて助けとな
 ることは平生人のことを考へたり語たりする時にその短
 所を考へたり語たりすることを避け、勉めてその長所を考
 へ且語る慣習を養ふことである。好んで人の短所を思ひそ

の過失を語るは大にキリスト教の愛徳を實行する上に妨害を與へるものである。それはその筈である。何となればそれは始終瘻口へ硫酸でも附て居るやうなものである。之に反して人の過失殊に自己に對する過失は可成見ないやうにして唯その賞讃べき方面のみを見るやうに勉むるとはキリスト教の愛の犠牲を耐へ易からしむるに相違ない。然し實際我々は之を忘れて居りはすまいか。兎角我等は他人の短所過失を語たり人種や遺傳性や習慣性の弱點を指摘することを好むやうな傾向はあるまいか。動もすれば人の品性を評價してその心術を疑ひその欠點を擧げて自ら満足することはあるまいか。或は豫め斷案を下してそうし

てそれを證據立る爲に材料を集めるやうなことはないか。又一たびその人に不利益な結論に達すれば生涯之を忘れないといふやうなことはないか。且又我等は自分で斯様な意見を持つばかりではない。折に觸れては他人に口走ることを憚らない。私は敢えて斯いふ人は決してキリスト教の愛を行ふことが出来ないとは斷言しないが、その極めて困難なことは疑はない。我等は寧ろ使徒パウロの例に倣ふべきである。彼は當時のキリスト信者の不完全であることは熟知して居つたけれども寛大なるキリスト教の愛をもつて常に彼等を聖徒と呼び且聖徒として待遇した。併し是れはパウロばかりではない。主イエスの態度もその通

であつた。イエスの周圍に大勢の人が集つて來たその中には税吏と罪人の輩も多く居つたけれどもイエスは何時も彼等を天父の子供と思ひ且永遠の救を受るに足るものとして待遇したまふた。斯くの如く人の短所よりも寧ろ長所を見るといふ精神は主に取つても使徒に取つても愛の道を行むの大なる助けとなつたとは自から明白であらう。然し豫めその費用を計るといふとの外に又人の弱點を見ないでその特長を見る習慣を養ふとの外に、今一つキリスト教の愛の行の助けとなる所のとがある。それは唯我等の利益になるばかりではなく大に獎勵になるとである。それは即ち理想に向つて進めといふ神の命令である。キリスト

の意を以て意とすべき神の召である。地上に神の國を建設せよとの命令である。衆徳の玉冠を戴けとの招である。神に倣へとの命令である。何となれば神は即ち愛である。無窮の榮光に入れよとの難有い明白なる命令である。貴婦人クリアよ我今汝に勸む互に相愛すべし是れ即ち本書の大法である。

大なる眞すなはちイエスキリスト肉體
と爲て來り給へる事

パウロは曾てエペソ教會の長老等に向つて我が去らん後汝等の中より弟子を己に従はせんとして邪なるを言出す

者起らんと戒めたが果してその預言通りになつた即ち多くの偽教師偽使徒等が起て、聖徒が一たび傳へられし信仰の道を守らず、イエスキリストの肉體となつて來りたまふたことを拒み、その教訓をも奉じないやうになつて來た。約翰傳福音書において最も力を込めて説てある眞理は窮なき生命の言が肉體と爲て人間に寄りたまふたことである。即ち此書を録せるは汝等をしてイエスの神の子キリストなることを信せしめ、之を信じその名によりて生命を得させんが爲なりとあるが、此書において最も力を込めた事はキリストの肉體と爲たまふたのは眞實であるといふことである。即ち神がキリストにおいて顯はれたまふた

のは眞の人格において顯はれたのであるといふ深奥なる眞理であつて老使徒ヨハネは今その愛する友人等に此眞理を固守すべきことを命じたのである。我等は片時もわれらの救主は眞の神であるといふことを忘れてはならぬ。又それと同時にその眞の人たる事も忘れてはならぬ。此に使徒ヨハネが凡てキリスト信者の生命に最大の關係ありとして主張する所の眞理はイエスキリスト肉體と爲つて來り給へりとの眞理である。即ちキリストは眞の人であるといふ眞理である。

又四福音に書かれたキリストの肖像を見てもその通である。キリストは飢ゑ且渴き、疲れ遂に死で墓の中に葬られ

たまふた。且その人間と爲りたまふたのは肉體ばかりではない、精神においても同じ人間に爲りたまふたのである。即ちその幼稚の時に身體精神共に増す成長したりと録してある。またその知らずに満足したまふた事もあつた。例へば世の終の日と時とは我が知る所にあらずと明言したまふたともある。又或時空腹を感じ遙かに無花果樹を見て或は實が成つて居るか知らんと思ふて其處へ往たまふた處が一つも實がなかつたともある。又或時は餘り大勢の人が附從ふて來るので暫時閑靜の地へ弟子とともに退ひて休息しやうと思ふて湖水の彼岸に渡りたまふた處がそこにもまた大勢の人々が待受けて居つたともあつた。或時はそ

の心が憂をもつて滿ちまた驚を以て滿ちたともある。實にキリストの生涯は祈禱と號泣と涕淚と誘惑の生涯であつた。その踏みたまふた途はすなはちその弟子等の辿るところと同途である。そうしてその經驗は全く眞實であつたのである。

もしも此の眞理を明白に理會すれば我々がキリストの事を思ふときに大變に助けになるであらう。それによつてキリストとわれとの間は何程近くなるであらうか。キリストの同情を信する念が如何に堅固になるであらうか。固よりキリストは我等に役るために來り、われらの重荷を擔ひ、われらの患難を負ひ、勞れたる者重を負へる者に安息を與

へ悲む者を慰め心の傷める者を醫したまふ方として思ふのも意味深いことである。然しながらキリスト自ら悲哀の人にして病患を知りたまふたといふことが分ればキリストについて更に新しい思想が浮んで来る。我等はどうかキリストを思ふ時には何時もさういふやうに考へたいものである。悲哀疲勞の時刻にも失望落膽の時刻にも不審忿怒の時刻にも終に此世を去つて冥界に入らんとする時刻にも如何なる時にもキリストは唯われらの永生の祭司であるのみならず凡ての事についてわれらの弱きを思遣ることの出来る祭司の長であるといふことを考へたいものである。何なればキリストは凡ての事についてわれらの如く

誘はれた方である。唯一つ違ふ所はキリストの経験は我等のそれよりも遙かに深奥といふことである。今一つ此の眞理即ちキリストの肉體となりたまふた事實を明白に理會することによつて我等の助けになることがある。即ち之を明白に理會すれば高尚なる生活を爲すの大なる刺激になる。神の子キリストは我等罪人の爲に卑しき人間の形體を取り遂に我等の爲にその生命を捨てたまふたといふことを心の奥底に確信することは慥かに愛によつて働き心を潔むる信仰の盡きざる泉源である。望の使徒ペテロの言に、若し此等の事を行なはば汝等いつまでも躓くことなからん且此世において實を結ばざるこ

となきに至らん然かして主イエスキリストの窮なき國に入るの恩を豊かに與へたまふべしとあるが愛の使徒ヨハナが貴婦人クレアに贈つた書にもまた願くは汝等眞と愛とに居りて神すなはち父およびその子イエスキリストより恩寵と慈悲とを受けよとあるが我々も御同前に此の大なる眞を悟り此の大なる法を守り、キリスト信徒たるもの諸徳を具へて、主イエスキリストの窮なき國に入るの恩寵を豊かに賜はりたいものではありませんか。

大なる法と大なる眞終

明治卅六年八月七日印刷

明治卅六年八月五日發行

著者兼
發行者

東京市芝區白金今里町明治學院内
ウ井リヤム、インブリー

印刷者
村岡平吉

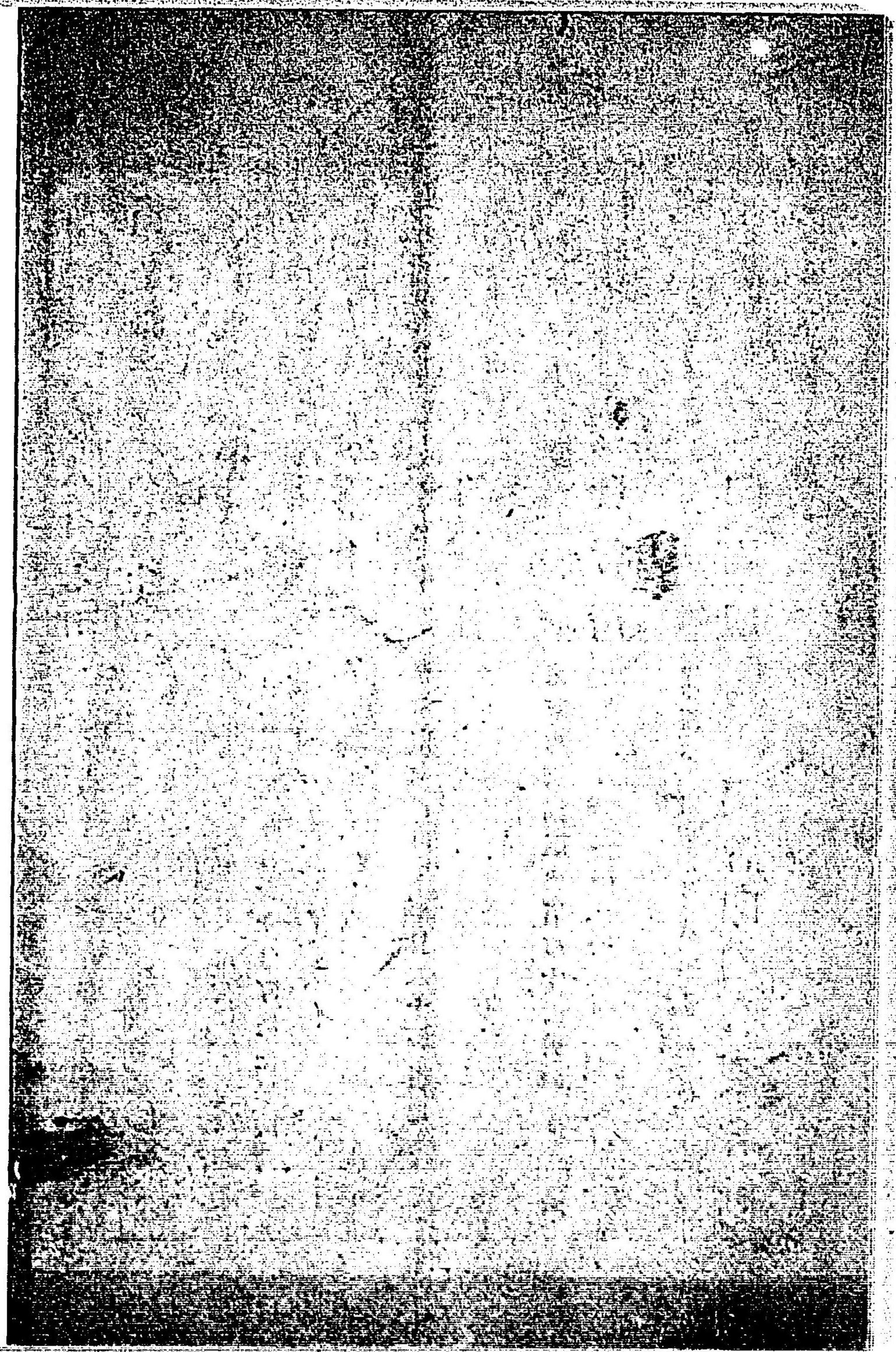
横濱市太田町五丁目八十七番地

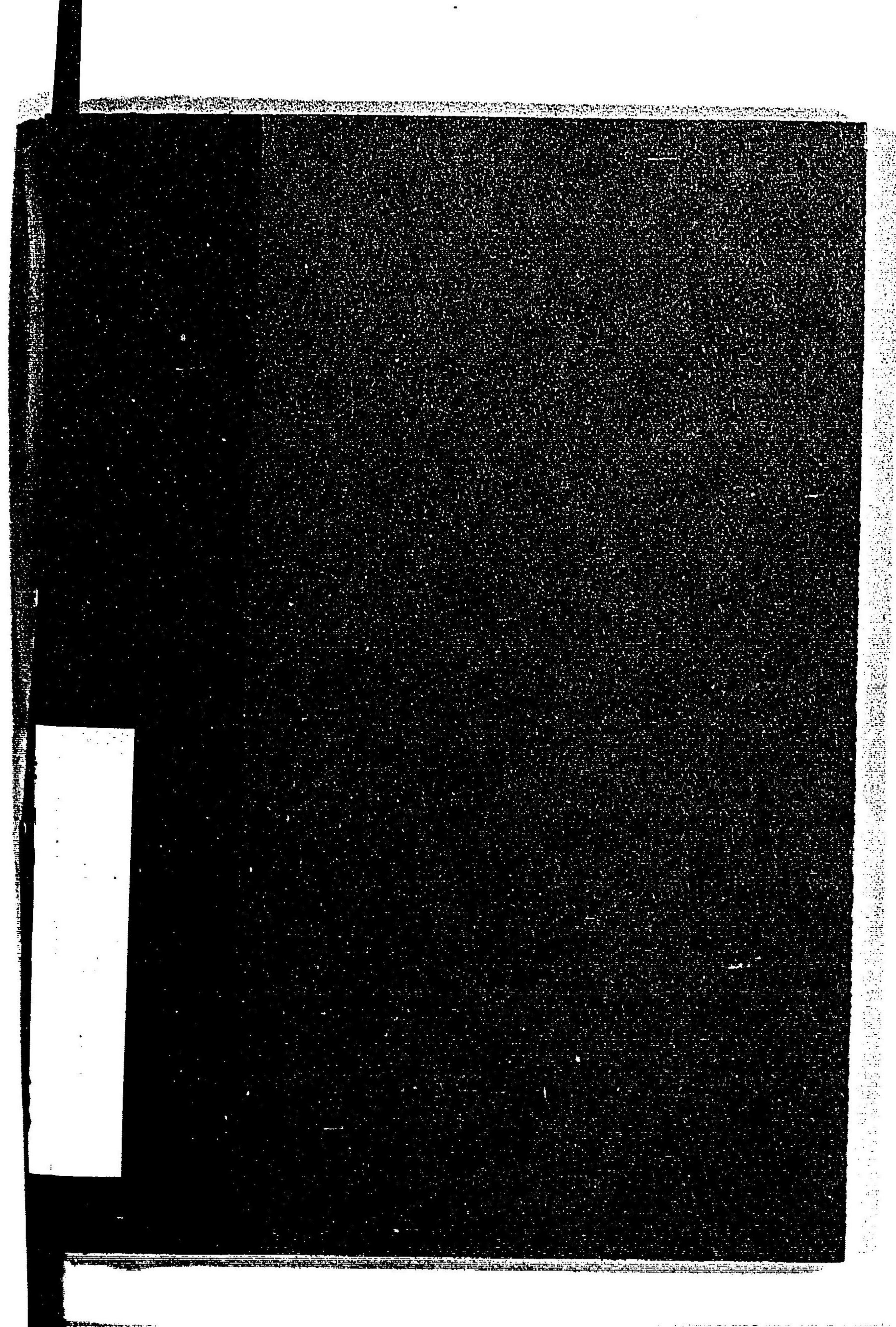
發行所
基督教書類會社

東京市京橋區明石町十七番地

印刷所
福音印刷合資會社

横濱市山下町八十一番地





特53

422

大なる法と大なる真

ウヰリヤム・インブリー

国立国会図書館

020284-000-5

特53-422

大なる法と大なる真

ウヰリヤム・インブリー/著

M36

ABI-0090



